

平成28年度 学校評価表 (最終)

学校教育目標 一歩前へ!果敢に挑戦 一夢を志に一

ミッション 「西中だからこそ」の教育の創造

ビジョン 信頼され誇れる学校

A:達成 B:概ね達成 C:もう少し D:できなかった

海田町立海田西中学校

評価項目	評価指標	目標達成のための具体的方策	評価結果	自己評価			
				評価点	成果○と課題▲		
確かな学力の育成	中期経営目標						
	短期経営目標						
	〇テストの無解答率ゼロと通達率の向上	全国学力・学習状況調査で国・数・理ともに県平均を上回る。 基礎・基本「定着状況調査」で国・数・理・英ともに県平均を上回る。 CRT(標準学力検査)で国・社・数・理・英ともに全国平均を上回る。	〇挑戦する心を育てる。 ・HRでの学習、西中検定等の取組で学習の基礎を培い更なる目標を持たせる。 〇授業力の向上 ・西中授業システムをベースに主体的な学習活動のある授業づくりを行う。 ・ICT活用で目的意識を明確にし意欲を高めグループワーク(GW)を効果的に取り入れる。 ・校内研修会を行い、すべての教員が学習指導案を書き、授業を公開する。 ・中学校区の合同研修会で小学校との連携を深め、系統的な学びができるような研究を行う。	国語A: 82.6 (+ 7.0) 国語B: 76.5 (+10.0) 数学A: 77.0 (+14.8) 数学B: 62.6 (+18.5) 国語: 75.7 (+ 6.0) 数学: 81.4 (+14.6) 理科: 54.6 (+ 2.8) 英語: 84.2 (+14.6)	中間 A 中間 B	〇すべて5ポイントを大きく超える結果となった。年間を通して生徒に目標をもたせ意欲的に学習させることができた結果である。 ▲日常生活にのみ使われない言葉、慣用語に課題がある。既習事項を日常生活と関連づけて考えることに課題がある。 〇すべての教科で県平均を上回ることができ、特に数学・英語について大きな成果があった。 ▲文庫から情報を読み取り整理、把握し、活用していくことに課題がある。	・日常生活と関連づけることで、知識の定着、さらなる学びへとつなげる取組を行っている。そのため広島版「学びの愛華」アクションプランの推進と学校生活すべてを学びの場とする取組を進めている。 ・学習が苦手な生徒も意欲を持って取り組もうとする態度が身に付きだしている。引き続き目標を持たせ、自らが学習に向かうことができ、生徒とするともに、解いてみなくてはならないような教材、課題、単元開発に努めている。
	〇授業力の向上	中学校区研究統一成果指標 ①授業では、解決しようとする課題について「たぶんこうではいかない」と予想している。②授業では、自分の考えとその理由を明らかにし、相手にわかりやすくわかるように発表をくふうしている。③と答える生徒の割合が県平均を上回る。	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:県平均 D:上回ることができなかった	1年 2年 3年 4年 国語: 76.3 (+ 3.2) 71.8 (+ 3.8) 社会: 64.1 (+ 4.7) 51.9 (- 1.9) 数学: 79.3 (+13.5) 79.2 (+20.8) 理科: 59.7 (+ 1.3) 62.1 (+ 0.3) 英語: 69.2 (+ 6.3) 78.5 (+20.9) 5教科: 69.7 (+ 5.8) 72.9 (+13.0)	最終 B	〇2年社会科以外は全国平均を上回ることができた。特に1年数学は13.5ポイント、2年数学・英語では20ポイント以上全国平均を超える結果であった。 〇5教科平均では1・2年ともに全国平均を5ポイント以上上回った。 ▲無解答のまま終わっている生徒が数名、正答率30%未満の生徒が各学年ともにいる。	・目標が達成できた教科は、西中検定や研究授業など、日ごらから取組を行っている教科であった。効果があった取組は引き続き行うとともに、各教科でCPDCAを行い、授業改善を進めている。 ・無解答率が高くなっている生徒については、意欲をもった取り組による支援や取組が必要である。教科、学年を超え、家庭も巻き込んだ取組やサポート体制を考察、実践していく。
	〇学習意欲の向上	生徒が主体的に学習し、西中検定に合格する。	A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満	1年 2年 3年 4年 国語 92.3 95.0 98.4 数学 98.5 89.6 98.4 英語 76.9 92.3 86.9	中間 B	〇平均92.0%の合格率で、最終テストまで意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ▲2年数学、1年英語、3年英語が90%を超えなかった。1年英語については、特に課題があると捉えている。	・合格までのプロセスを学習習慣の定着に結びつけるとともに、生徒にやってよかったという達成感を持たせる取組にしていく。 ・基本をおさえ絶対のチャンスと捉え、生徒の合格への思いをくんだ補習学習等を行っている。
	〇授業力の向上	〇平均92.0%の合格率で、最終テストまで意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ▲2年数学、1年英語、3年英語が90%を超えなかった。1年英語については、特に課題があると捉えている。	A:80%以上 B:70%～80%未満 C:60%～70%未満 D:60%未満	1年 2年 3年 4年 国語 95.3 98.0 99.2 97.5 数学 99.2 89.2 96.7 95.1 英語 83.7 89.2 90.2 87.7	最終 B	〇全学年合計の合格率は国語・数学では目標の90%を超えた。不合格であっても最後まで努力する姿は褒められた。 ▲2年数学、1年英語、2年英語が90%を超えなかった。	・西中検定でのものは生徒の中で定着した。合格させるための時間の確保も含めて計画を立てる。 ・さらに問題の精選等を行いながら、生徒にとって「やればできる」と思える経験と評価のできる取組にしていく。
豊かな心の育成	〇生徒会活動の活性化	集団により貢献したいとする意識を高める(Q/Aアンケート「みんなのためになることを自分で見つけたい」項目)	〇肯定的評価176 (85%) 否定的評価31(15%)	中間 A	〇生徒会活動が、より全体に働きかける取組が組織されたこと。また随時肯定的評価の割合が高くなり結果として考えられる。 ▲時間的制約の中で生徒会執行部と各委員会担当教諭との話し合いの場が持ちつらぬ状況にある。	・生徒の主体的な活動を支援していく体制を教職員で創りあげ、学級集団として生徒一人一人がその活動に積極的に関わろうとする取組が、より進んでいる。 ▲中間との比較で、1,2年生の肯定的評価が減少しており、自尊感情の持たない生徒が若干名増えている。	
	〇道徳的実践力の向上	無言排除ができるという生徒を100%にする(生徒指導部作成の生活実態調査による)	〇無言排除が行えたか」の設問に対して、肯定的評価156(79%) 否定的評価42(21%) ボランティア手帳5回以上の記載 193(92.8%)	中間 C	〇無言排除に関して、やらされ感の払脱。 ▲ボランティア手帳の配付により関心・意欲の高まりが見えた。校内でのボランティア参加は積極的に進んでいる。 ▲地域ボランティア参加への関心・意欲の高まりが課題である。	・委員会の活動を十分に活用し、継続した無言排除への取組を行う。 ・心の元気事業の小中合同清掃活動による地域への愛着や貢献の感情を育む。	
	〇ボランティア活動による回数	ボランティア活動を年5回以上行った生徒を80%以上にする(ボランティア手帳による回数)	〇無言排除が行えたか」の設問に対して、肯定的評価192(98%) 否定的評価4(2%) ボランティア手帳5回以上の記載 197(94.7%)	最終 B	〇無言排除に向けて、毎回美化委員長の校内放送による動きの指示や集会における委員会の呼びかけが大きな効果的であった。 ▲いつもできていると回答する生徒は73%にとどまり、だいたいできているとする生徒は28%であった。 〇ボランティア手帳の配付により関心・意欲が高まった。部活動や母体としたVS活動の輪は広がって、積極的に進んでいる。 ▲ボランティア活動に対して、自ら関心・意欲をもって実践できるかは課題である。	・夢や目標を持ち、それに向け継続して努力することの大切さを教育全般において伝えていく。特に学級担任は、生徒の自分に向けたポジティブな行動に対しては積極的に肯定的評価を与えていく。	
	〇ボランティア活動による回数	ボランティア活動を年5回以上行った生徒を80%以上にする(ボランティア手帳による回数)	〇無言排除が行えたか」の設問に対して、肯定的評価192(98%) 否定的評価4(2%) ボランティア手帳5回以上の記載 197(94.7%)	最終 B	〇無言排除に向けて、毎回美化委員長の校内放送による動きの指示や集会における委員会の呼びかけが大きな効果的であった。 ▲いつもできていると回答する生徒は73%にとどまり、だいたいできているとする生徒は28%であった。 〇ボランティア手帳の配付により関心・意欲が高まった。部活動や母体としたVS活動の輪は広がって、積極的に進んでいる。 ▲ボランティア活動に対して、自ら関心・意欲をもって実践できるかは課題である。	・夢や目標を持ち、それに向け継続して努力することの大切さを教育全般において伝えていく。特に学級担任は、生徒の自分に向けたポジティブな行動に対しては積極的に肯定的評価を与えていく。	
	〇ボランティア活動による回数	ボランティア活動を年5回以上行った生徒を80%以上にする(ボランティア手帳による回数)	〇無言排除が行えたか」の設問に対して、肯定的評価192(98%) 否定的評価4(2%) ボランティア手帳5回以上の記載 197(94.7%)	最終 B	〇無言排除に向けて、毎回美化委員長の校内放送による動きの指示や集会における委員会の呼びかけが大きな効果的であった。 ▲いつもできていると回答する生徒は73%にとどまり、だいたいできているとする生徒は28%であった。 〇ボランティア手帳の配付により関心・意欲が高まった。部活動や母体としたVS活動の輪は広がって、積極的に進んでいる。 ▲ボランティア活動に対して、自ら関心・意欲をもって実践できるかは課題である。	・夢や目標を持ち、それに向け継続して努力することの大切さを教育全般において伝えていく。特に学級担任は、生徒の自分に向けたポジティブな行動に対しては積極的に肯定的評価を与えていく。	
	〇ボランティア活動による回数	ボランティア活動を年5回以上行った生徒を80%以上にする(ボランティア手帳による回数)	〇無言排除が行えたか」の設問に対して、肯定的評価192(98%) 否定的評価4(2%) ボランティア手帳5回以上の記載 197(94.7%)	最終 B	〇無言排除に向けて、毎回美化委員長の校内放送による動きの指示や集会における委員会の呼びかけが大きな効果的であった。 ▲いつもできていると回答する生徒は73%にとどまり、だいたいできているとする生徒は28%であった。 〇ボランティア手帳の配付により関心・意欲が高まった。部活動や母体としたVS活動の輪は広がって、積極的に進んでいる。 ▲ボランティア活動に対して、自ら関心・意欲をもって実践できるかは課題である。	・夢や目標を持ち、それに向け継続して努力することの大切さを教育全般において伝えていく。特に学級担任は、生徒の自分に向けたポジティブな行動に対しては積極的に肯定的評価を与えていく。	
健やかな体の育成	〇基本的な生活習慣の確立	決めた時刻に起きている生徒の割合を80%以上にする(全国学力・学習状況調査「基礎基本定着状況調査」毎日、同じ時刻に起きていますか」項目)	〇三点固定の徹底 生活リズムを利用して指導を行う。 〇朝の指導の充実 保護者との連携を密にする。 保健だよりで基本的な生活習慣について啓発する。	中間 A	〇生活リズムに日々の起床時刻を記入させることで指導を個別に行うことができた。 〇学習活動において全学年、食育に関する授業を設け、特に朝食の重要性について理解させることができた。 ▲なかなか改善に至らない生徒の自覚をいかに促していくかが課題である。	・改善のみならず生徒に関しては、継続して保護者連携していくとともに個別の生活習慣チェック等による生活改善への手立を講じる。	
	〇朝食の定着	朝食を毎日食べている生徒を90%以上にする(全国学力・学習状況調査「基礎基本定着状況調査」朝食を毎日食べていますか」項目)	〇学期1回、学級活動で食に関する指導を行う。 〇保健だよりで食習慣について啓発する。	最終 A	〇3点固定(起床・就寝・家庭学習開始時刻)を呼びかけ、日々の生活リズムへの記載をさせることで、個別指導することができた。 〇海田高校生徒訪問による食育に関する話は有意義であり、食の重要性を理解させるに足る内容であった。 ▲中間との比較で、定時起床、朝食摂取の有無ともに、1,2年生の肯定的評価が減少している。	・アンケート結果を随時、保護者に提示し協力を求めたいとともに、個別指導を徹底していく。 ・食育に関する学級指導の時間確保を行い、学期に1回は朝食の意義について考える時間を設ける。	
	〇体力の向上	体力テストで、県平均を上回る。	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:県平均 D:上回ることができなかった	1年6.0ポイント 2年6.0ポイント 3年7.0ポイント 合計6.3ポイント	中間 A	〇県平均、全国平均、学校平均、昨年度の個人記録等目標設定しやすし数値を示すことで意欲的に取り組めた。 ▲1日の運動時間が0分と答える生徒への個別の手立てをいかに行うかが課題である。	・県平均・全国平均以下の種目については、体育の補助運動等で改善をすすめ、再度測定を行い検証していく。 ・文化系の部活動にも定期的に運動を仕組んでいく。
〇情報の受信・発信の充実	海田町学校教育意識調査の「子どもたちの学校の現状について」の満足度が昨年度を上回る。	A:5ポイント以上 B:1ポイント以上～5ポイント未満 C:昨年度と同じ(80%) D:上回ることができなかった	1年96.0(84.3) 2年87.2(84.7) 3年87.9(88.7) 合計90.1(86.1)+4.0	中間 B	〇学力の向上や体力・運動能力向上、暴力・いじめを許さない取組、競技力向上事業、情報機器の活用、生徒の地域での挨拶等の実践を全てのアンケート項目において前年度より肯定的評価が伸び、全体での評価も向上した。	・学校だよりやHPなどで学校での活動のPRや実際に実践しただき子供の活動を発信し、保護者や地域の方へ積極的に参加し、西中の果敢に挑戦する姿をみていただく。	